

高齢者の“かゆみ”

皮膚病変がないのににかゆい状態を皮膚掻痒(そうよう)症と呼びます。高齢者ではドライスキン(乾皮症、皮脂欠乏症)が主な原因です。空気が乾燥する冬場に生じやすく、熱い風呂に入ったり、体を強く擦って洗うと、皮脂が取られ皮膚表面の角質細胞が剥がれるので、水分が蒸発しやすくなって皮膚が乾燥します。

妊娠や全身疾患(糖尿病、貧血、リンパ腫、悪性腫瘍、甲状腺疾患、精神病など)に伴う掻痒症もあります。腎障害(透析)や慢性肝臓病に見られる中枢性かゆみでは、脊髄・脳における内因性オピオイドの不均衡が関与するので、オピオイド受容体作動薬レミッチ®などが治療に使われます。

健康♪外来ニュース

掻きたくなるのが“かゆみ”

かゆみは「引っ掻きたくなるような不快な感覚」と定義され、外部から侵入する敵に対する防御と、体内の異常を知らせるサインの役割をしています。かゆみの信号は、表皮と真皮の境界にある末梢神経末端のC線維から入って脊髄を上がって脳に伝わります。C線維を刺激する物質は、肥満(マスト)細胞(IgEが付着するとアレルギーを起こす)から出るヒスタミン、リンパ球(液性免疫に係るTh2細胞)から出るインターロイキン(IL-4は急性、IL-31は慢性のかゆみに関与)などがあります。

蕁麻疹では、アレルギー(食物、薬)、物理的刺激(温度、日光、接触)、運動、ストレスなどで活性化された肥満細胞からヒスタミンが出て、かゆみと同時に血管を拡張させて赤いむくみ(境界明瞭な地図状膨疹)を生じます。抗ヒスタミン剤、ステロイド剤を使用して、数時間～1日以内に跡形なく消えます。

アトピー性皮膚炎では、アトピー素因(アレルギーの家族歴・既往歴があり、血中IgEや好酸球が多い)を持ち、皮膚が弱い(皮膚バリア機能が低下した)状態で起きます。皮膚バリアが低下すると異物が容易に侵入してリンパ球と反応してかゆみを生じます。ステロイド剤、JAK阻害薬などを使用します。

かゆい所の皮膚に痛み刺激(掻く、たたく、冷やす)を加えると、脊髄内で痛みの伝達神経がかゆみの伝達神経を抑え込むので、かゆみが軽減されます。引っ掻く動作は、皮膚に付着した外敵を取り除く行為と言えますが、掻き過ぎると皮膚に傷が残って外敵が侵入しやすくなる矛盾が生じます。

デルモグラフィー(皮膚描記法)

皮膚を傷つけない程度に硬いもの(爪、筆記具の端など)で擦って刺激すると特徴的な線が描けることがあります。蕁麻疹では刺激によって肥満細胞から分泌されたヒスタミンが血管を拡張させて局所が充血して赤い線を生じます(赤色描記症)。アトピー性皮膚炎では機械的な刺激によって血管が収縮して虚血状態になるので白い線になります(白色描記症)。



医療法人 祥佑会

藤田胃腸科病院

〒569-0086 高槻市松原町17-36

TEL 072-671-5916

FAX 072-671-5919

健康♪外来

水曜日 14:00～17:00(要予約)

担当：中嶋